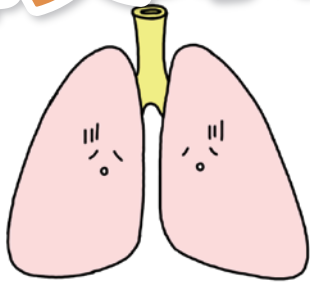


肺炎球菌ワクチンについて



-おくすりの話 vol.18- 薬剤部 廣瀬 薫



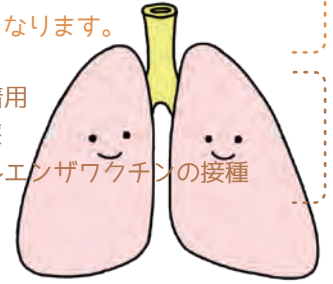
肺炎は風邪と勘違いしやすい病気ですが、肺炎は日本人の死因第3位に入っています！しかも亡くなる方の約95%が65歳以上の高齢者なのです。

肺炎てどんな病気？

肺炎は細菌やウイルスなどが体に入り込み、肺に感染して起こる病気です。症状は風邪に似ており、発熱、咳、呼吸苦などが挙げられますが風邪よりも症状が重くなります。原因となる細菌やウイルスは日常生活の中に潜んでおり、体の抵抗力が低下した時に感染を起こし易くなります。

肺炎予防について

- ①毎日の感染予防 うがい、手洗い、マスクの着用
- ②免疫力を高める 規則正しい生活、持病の治療
- ③予防接種を受ける 肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチンの接種



肺炎球菌ワクチンの接種がすすめられる方

- * 65歳以上の方
 - * 養護老人ホームや長期療養施設などに居住されている方
 - * 慢性の持病をお持ちの方 呼吸器疾患
糖尿病
慢性心不全…など…
 - * その他
病気や薬などで感染症にかかりやすい状態にある方など…
- 上記に当てはまる方は是非医師にご相談ください！！

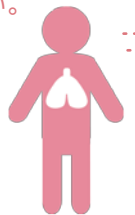
接種時期

- * 初めて接種する方*
65歳以上の方や左記項目に該当する方は接種が推奨されます。接種は年間を通していつでも行えます！
- * 過去に接種経験のある方*
5年以内に再接種を行うと注射をした部位の痛みが強くなる場合があります。そのため5年以上の間隔をあけて行うようにしてください。接種した年月はお薬手帳などにメモをしておきましょう！！

ここでお知らせです！

2014年（平成26年）10月より「肺炎球菌ワクチン」による高齢者の肺炎球菌感染症の定期接種（公費助成あり）の制度が始まっています！！（予防接種法に基づく）今年度（平成28年度）の肺炎球菌感染症の定期接種対象期間は平成28年4月1日から平成29年3月31日までとなります。期間内に接種を行わないと公費助成の対象とはならず原則自己負担での接種となりますので注意してください。

- * 今年度の定期接種対象者は以下の通りです。
平成28年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる方
- * 今まで肺炎球菌ワクチン*を接種したことがない方（公費助成のある年齢の方には通知が届きますが、過去に肺炎球菌ワクチンを1回以上接種した方は対象外になります）*23価型肺炎球菌英膜ポリサッカライドワクチン
また、60歳から65歳未満の心臓、腎臓、呼吸器、の持病をお持ちで日常生活に制限のある方も定期接種の対象となることがあります。



副反応について

接種部位の症状(痛み、赤み、腫れ等)がありますが多くは軽度で2~3日で消失します。その他、熱、だるい、息苦しさが見られる場合は医師に相談してください。

さらなる肺炎予防について

これから冬が近づいてくるにあたりインフルエンザウイルスによる感染症の流行期に差し掛かります。インフルエンザに罹ると肺炎球菌性肺炎が多発するという報告があります。そのため肺炎球菌ワクチンと一緒に、インフルエンザワクチンの接種もご検討お願い致します！ご不明な点はお気軽に医師、薬剤師までご相談ください。

